

平成22年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	萌芽研究		研究代表者 氏 名	松村敦
研究課題	子どもの質問に着目した絵本の組織化と推薦手法に関する研究			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
松村敦	図書館情報メデ ィア研究科・助 教	情報学	研究統括	
研究目的				
<p>豊かな読書生活を送るために、幼児期に子どもが絵本と出会う機会は重要な役割を果たすとされており、特に、子どもが興味をもって絵本に接することの必要性は先行研究によっても指摘されている。しかしながら、どのような絵本を子どもに与えたら良いかといった点への十分な支援が得られないことが問題となっている。</p> <p>本研究では、このような問題に対して、システム的な観点から情報推薦技術の適用に取り組む。その際、子どもの発する質問をその子どもの興味関心ととらえ、これを利用して絵本を組織化し、推薦する仕組みを実現することを目指す。</p>				
研究成果				
<p>子どもの質問に着目したソーシャル絵本推薦システム「ぴくぶく」の開発を行った。本システムには、子どもの質問を投稿する機能と、質問に対して絵本を推薦する機能がある。利用者が、自分の子どもが発した質問を記録していくと、他の利用者からその質問に対して絵本の推薦が行なわれる。お互いに質問の記録と絵本の推薦を繰返すことで、親同士のコミュニケーションを促進し、同時に子どもに適切な絵本を推薦することが可能となる。また、本システムは子どもの質問に対してカテゴリを付与することで絵本自体の意味的な組織化も同時に行なう機能がある。</p> <p>本システムの有効性を評価するために、実際の親子 25 組に協力してもらい、1ヶ月間にわたるシステムの利用実験を行なった。その結果、以下のことが明らかとなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問 236 件に対して絵本の推薦 117 冊のコミュニケーションが行なわれ、25 人中 21 人に対して絵本の推薦が行なわれた。 2. アンケートから、システムの使い勝手は良く、楽しく利用できることが示された。また、システムを使うことによって、子どもの質問をよく聞くようになったり、他の子どもの質問にも興味が出てきたりなど、親子のコミュニケーションにより影響がみられた。 3. 絵本に付与されたカテゴリの精度を評価したところ、61.5%程度であり、絵本の組織化を実現するには、十分な精度を得られていなかった。 <p>本研究により、親の負担が軽く、楽しく絵本の推薦ができる枠組みをシステムとして実現できた。今後の課題は、より充実した絵本推薦のために、ソーシャルな推薦だけでなく、自動的な推薦機能を組み込むことである。そのためにも、カテゴリ付与の精度をあげる必要がある。</p>				

代表的な研究発表・特許等の成果一覧，特記事項等

今満亨崇，岡本穂高，柿島大貴，松村敦．子どもと絵本をつなぐ（ポスター発表）．第12回図書館総合展／学術情報オープンサミット2010，横浜，2010-11-24/26.

松村敦，柿島大貴，宇陀則彦．子どもの質問に着目したソーシャル絵本推薦システム．情報知識学会誌，2011，vol. 21，no.2．（2011-05-28 発表予定）